

「接続料の算定等に関する研究会(第91回)」 ヒアリング資料

2024年12月24日
株式会社NTTドコモ

つながろう。驚きを。幸せを。

NTT
docomo

- ahamoは、実質的な利用者料金の改定を行っており、検証対象とすることに異論はない
- irumo 3GB、6GBは、競争環境の変化も認められないため、再検証の必要はないと考える

MVNOが主張する検証対象サービスに対する当社意見

対象サービス	検証を要望しているMVNO			当社意見
	MVNO 委員会殿	IIJ殿	オプテージ 殿	
ahamo (税込み2,970円/月)	○	○	○	✓ 過去検証時から実質的な利用者料金の改定を行っているため、 <u>検証対象とすることに異論はない</u>
irumo 3GB (税込み2,167円/月) ※最大割引後 880円/月	○	○	○	✓ 過去検証時から利用者料金の改定や接続料等の上昇はなく、 <u>利用者の利用状況に大幅な変化も認められない</u> ✓ <u>したがって、競争環境の変化は認められないため、再検証の必要はないと考える</u>
irumo 6GB (税込み2,827円/月) ※最大割引後 1,540円/月	-	-	○	✓ なお、モバイルスタックテストの指針（以下、GL）の改定は環境の変化に該当するものではないと考える <u>過去にデュープロセスを経て策定されたGLに基づき行われた検証結果を尊重すべきであり、GLの改定のみを理由とした再検証は不要と考える</u> ✓ その他、スタックテストの検証には <u>一定の稼働がかかる点もご考慮いただきたい</u>

項目	MVNOの主張	当社意見
検証対象	✓ 過去検証済みのプランについて、検証実施時に用いた数値が大きく変わる場合は、「環境の変化」があるものとして再検証を実施する基準の明確化を要望 ✓ 例えば、以下のような基準を明確にすることが考えられる ・ 一度、検証対象サービス等となったものは「検証時点からの環境の変化」が発生した場合に再度検証を行うこと ・ 「検証時点からの環境の変化」は、以下の事例等が考えられる ・ データ伝送役務に係る接続料が前年度より上昇した場合 ・ 「営業費相当額」が前年度と比べて著しく上昇した場合 ・ 「利用者料金」に変化(GBあたりの月額料金が低廉となった、検証に考慮する割引等が増えた等)がある場合	✓ <u>再検証の要否は、GLに規定された検証対象の選定要件に則り、その要件の該否を都度議論すべきであり、再検証を実施する基準を定める必要はないのではないか</u> ✓ なお、前述の通り、<u>GLの改定は環境の変化に該当するものではなく、GLの改定のみを理由とした再検証は不要と考える</u>
	✓ 「お試し」が適用されるプランは、来年度の検証を待たず、可能な限り速やかに臨時の検証を要望	✓ 検証にあたっては、利用実績を把握する期間が必要なため、<u>検証期間をご考慮いただきたい</u> ✓ 各社から発表されたお試し割の内容を踏まえ、<u>検証方法を検討する必要があるのではないか</u>

項目	MVNOの主張	当社意見
検証方法	✓ 検証に用いる「営業費相当額」について、直近5年間の平均値ではなく、直近1年間の値を用いて検証されることを要望	✓ 営業活動に係る費用は、時期や環境により短期的に変動するものである一方、モバイル通信サービスは利用者料金として長期的に回収するものであるため、1年間の実績では評価は難しく、<u>5年間の平均値で検証することが合理的と考える</u>
	✓ 営業費相当額等について、メインブランドの数値が含まれることにより、過少となるおそれがあるため、対象プランごと数値にて算定を行う必要 ✓ 新規加入者数による按分等、より適当な算出方法について検討いただくことを要望	✓ 当社はサブブランドを有しておらず、<u>ahamo、irumolはプラン名称であり、サブブランドではない</u> ✓ プランごとの営業費について把握する仕組みがないため、<u>対象プランごとの算出は不可</u> ✓ 現状も検証対象サービス等の利用者料金に接続会計における営業収益に対する営業費の割合を乗じている点を踏まえると、<u>サービスごとの営業費相当額を考慮していると考え</u> ✓ なお、営業費相当額には、ドコモショップやコールセンターの運営費等、既存契約者向けのものも含まれ不可分なので、新規加入者数による按分は適切ではない